

総務大臣賞

「税金が照らす夢のスタートライン」

大阪教育大学附属平野中学校 3年

森谷 環

私は小学生の頃から、ものづくり分野に興味があった。しかし、周りには同じようにものづくりが好きな女の子はほとんどおらず、それらを好きだということにどこか遠慮している自分がいた。

中学生になって、私は「STEAM教育とジェンダー意識による、理系女性人材育成」というテーマで探求活動を行っている。そして来年、スウェーデンに留学しようと考えている。スウェーデンは、教育とジェンダー平等の先進国であり、社会全体で性別に関係なく、誰もが自由に進路を選択できる国だからだ。私はそのような国で、理系進路を望む女性を応援するきっかけの場を提供するための知見を得たいと思う。

この留学を後押ししてくれているのが、「トビタテ！留学JAPAN」という留学支援制度だ。奨学金は主に民間の寄附によって成り立っているが、制度の運営や研修などは文部科学省、つまり税金によって支えられている。誰かの善意と、税金の両方があつたからこそ、私は今、大きな一步を踏み出そうとしている。

世の中には、自分の力だけではどうしても届かない場所がある。学費や家庭の事情、地域差。そんな壁を乗り越えるために、税金が果たしている役割はとても大きい。例えば、トビタテ！留学JAPANのような給付型奨学金は、経済的な理由で留学や進学を諦めざるを得ない若者の背中を押す。科学館や市立図書館は、誰でも利用できる学びの場として、知る喜びを平等に届けてくれる。私は、道路や建物などの見えるものだけでなく、未来の可能性という見えないものも静かに支えているのが税金だと考える。

税金というと、「取られるもの」であり、「誰かのためのお金」というイメージが先行しがちだ。しかし、私は税金について、一人ではできないことをみんなで実現するための素晴らしい仕組みだと思う。誰かが納めた税金が、誰かの人生を変える。私が今、留学に挑戦しようとしても、誰かが納めた税金という想いの上に成り立っている。その想いがなければ、私は留学という夢のスタートラインに立っていなかつたかもしれない。そう考えると、納税はただの義務ではなく、社会を良くしたいという意思表示にも思えてくる。

さて これから私は、社会の一員として生きていくわけだが、ただ納税者になるのではなく、社会を作る一人になりたいと思う。科学に心を躍らせる女の子や、宇宙に憧れる女の子が、自信を持って夢を語り、理系進路を選べる制度や教育の整備に税金を支払いたい。人はそれぞれ違うけれど、夢のスタートラインに立つ機会だけは、誰にとっても平等にあって欲しい。だから、私はその土台を支えるために学び続け、行動する一人になりたいのだ。